MINOLTA

VECTIS S-100

使用説明書

お買い上げありがとうございます。
ミノルタベクティスS-100は、カメラが初めての方にも気軽に写真の楽しさを味わっていただけるように開発された、アドバンストフォトシステム(APS、以下新システム)の一眼レフカメラです。

※このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

この使用説明書の構成について

撮影しましょう［入門編］**(16ページ〜)**
このカメラの基本的な使い方を説明しています。初めて一眼レフを使われる方でも、この章だけですぐに撮影が楽しめるようになります。

撮影シーンにあわせて撮ってみましょう［初級編］**(37ページ〜)**
もう少しいろいろな写真を楽しみたい方は、この章にお進みください。さまざまな場面に合わせた写真が手軽に撮影できるようになります。

写真の描写を変えてみましょう［中級編］**(44ページ〜)**
シャッター速度や絞り値をコントロールして、写真の描写を思い通りに変えることもできます。

こんなこともできます**(51ページ〜)**
その他のカメラの機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

知っておくと便利です**(70ページ〜)**
このカメラについて参考になる情報を載せています。必要に応じてお読みください。

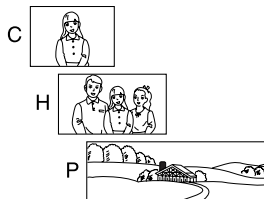
新システムの特長

フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX240カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。
また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。

使用状態マーク

- ○ 未使用
- ◗ 撮影途中
- ✕ 使用済
- ▯ 現像済

３種類のプリントタイプが選べます

新システムのカメラでは、プリントのタイプをＣタイプ、Ｈタイプ、Ｐタイプの３つから選べます。また、１本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

現像・焼き増しも簡単です

お店に現像・プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（１本のフィルム内のすべての写真を、まとめて１枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。
このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単にできます。

目次

写真の描写を変えてみましょう［中級編］

こんなこともできます

知っておくと便利です

正しく安全にお使いいただくために

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです（左図の場合は発熱注意）。

 ⃠記号は、行為を禁止する内容を告げるものです（左図の場合は分解禁止）。

● 指定された電池以外は使わないでください。
● 電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
● 火中への投入、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。
● 新しい電池と古い電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池や幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

⚠警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意を払ってください。ストラップが首に巻き付くなどの事故の恐れがあります。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
失明の恐れがあります。

⚠注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

防滴についての注意

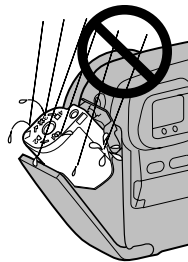
このカメラは、小雨や雪の中で撮影しても安心なJIS保護等級２（防滴II型）相当の防滴設計になっています。ただし水圧に耐える防水性能は備えていませんので、水中での使用や水洗いはできません。さらに、下記の点に注意してお使いください。

- **屋外で撮影中に雨が強く降ってきたときは、すみやかに、雨に濡れないところにカメラを片付けてください。また、雨中に放置しないでください。**

- **短時間でも、カメラを流水やシャワーに当てないでください。また、バケツ等でカメラに水をかけないでください。**

- **カメラに水滴や汚れがついた場合は、そのまま放置せずに、なるべく早く乾いた柔らかい布で、カメラ内部に水滴が入らないよう注意してふき取ってください。特にジュースや海水など糖分や塩分を含んだものは、故障の原因になりますので、かからないように注意してください。**

- **カメラに砂や泥が大量にかかると、故障の原因になります。浜辺などではカメラを砂の上に直接置かないでください。**

● カメラの内部は防滴設計ではありませんので、
  ○ フィルム室・電池室を開けるときや、レンズを取り外すときは、カメラの水滴や汚れをよくふき取ってください。
  ○ フィルム・電池の出し入れや、レンズの取り付け・取り外しは、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で行なってください。

● フィルム室ふたや電池室ふたは、カチッと音がするまできっちりと閉じてください。
  ふたを閉じる際に、ふたの内側のパッキンやその周囲に水滴や砂が付いているときは、水漏れの恐れがありますので、乾いた柔らかい布で取り除いてください。

● フィルム室ふたや電池室ふた内側のパッキンは常にきれいにしておいてください。切れたり、伸びたり、キズができているときは、水漏れの恐れがありますので、当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は-10〜50℃です。
- 直射日光下の車など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

新システムフィルムの取り扱いについて

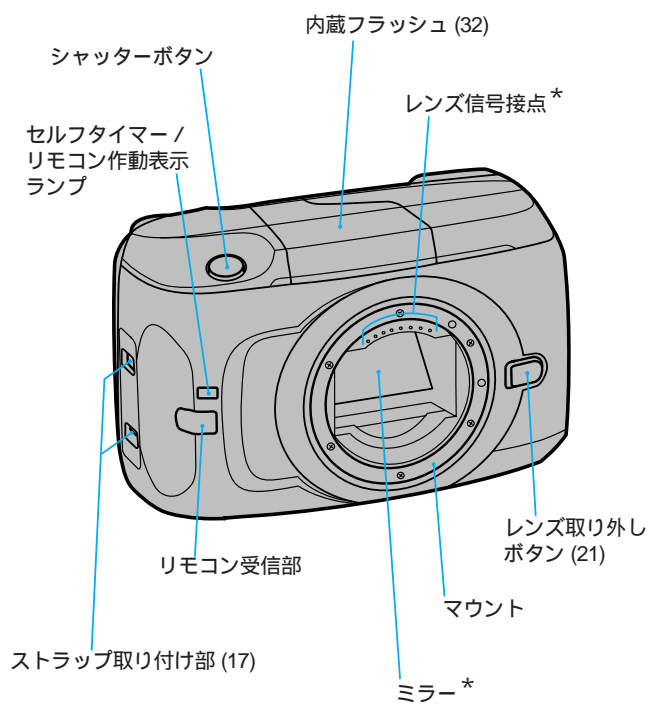
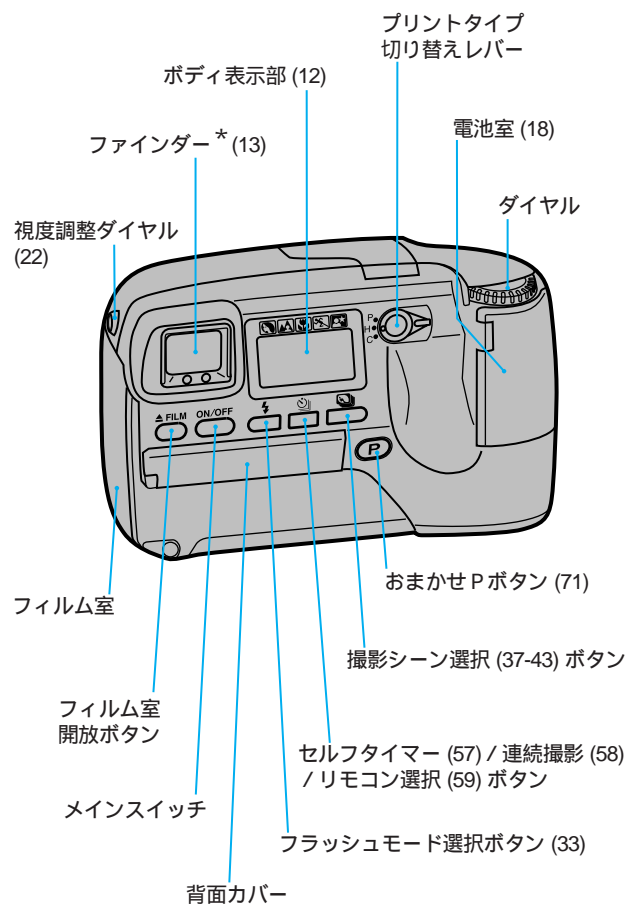
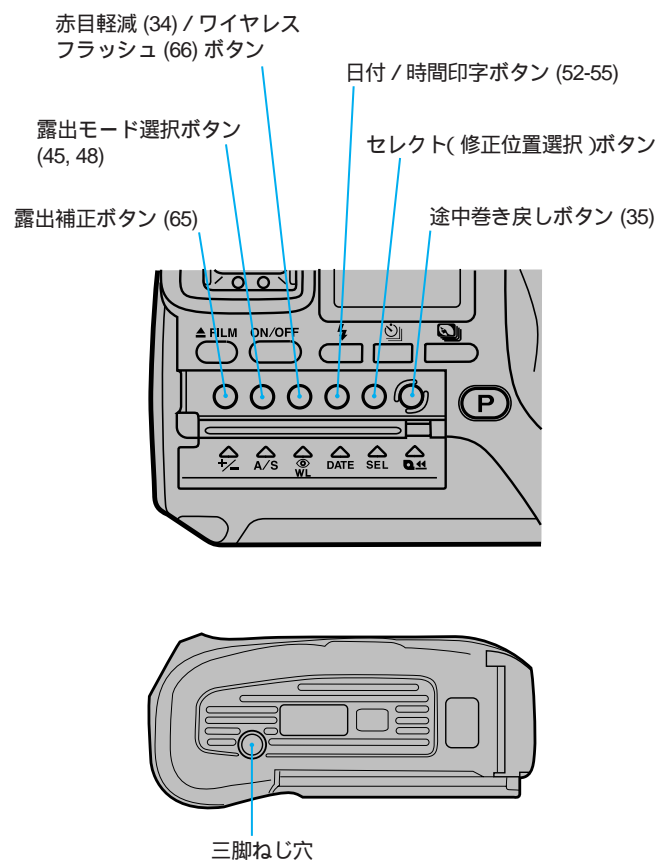
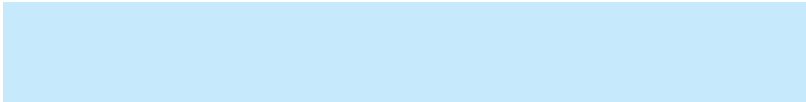
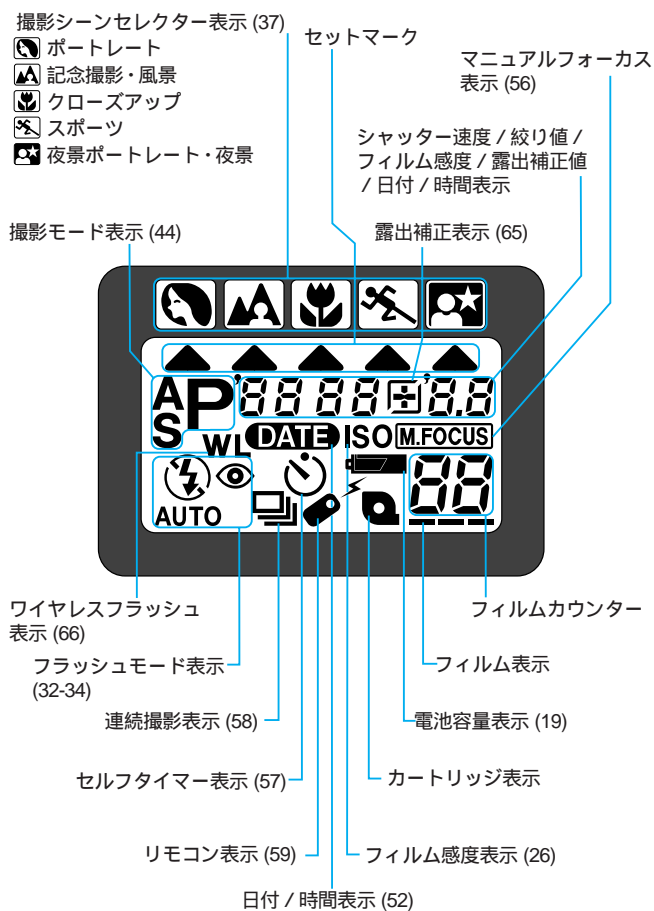
新システムのフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ（テレビ受像機やスピーカーの上など）に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

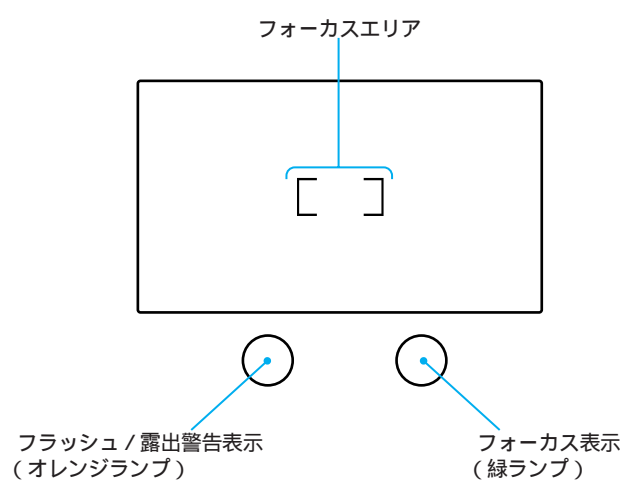
各部の名称

(　)は参照ページです。
***のついたところは、触らないでください。**

ボディ

プリントタイプ
切り替えレバー
ボディ表示部 (12)
ファインダー＊(13)
電池室 (18)
ダイヤル
視度調整ダイヤル
(22)
FILM
ON/OFF
P
H
C
おまかせＰボタン (71)
フィルム室
撮影シーン選択 (37-43) ボタン
フィルム室
開放ボタン
セルフタイマー (57)／連続撮影 (58)
／リモコン選択 (59) ボタン
メインスイッチ
フラッシュモード選択ボタン (33)
背面カバー

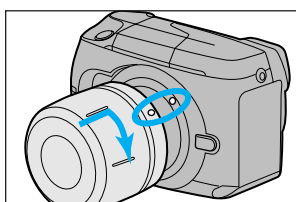
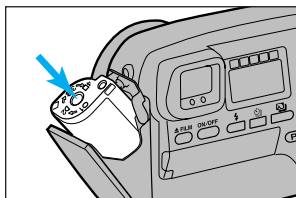
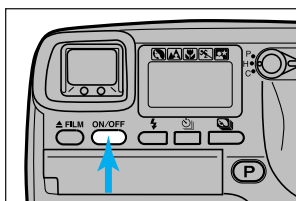
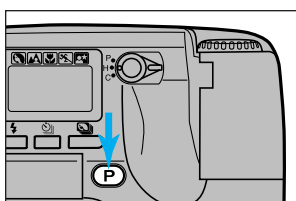
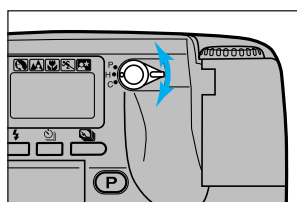
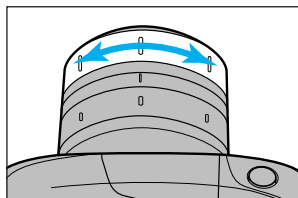
赤目軽減 (34)／ワイヤレス
フラッシュ (66) ボタン
日付／時間印字ボタン (52-55)
露出モード選択ボタン
(45, 48)
セレクト (修正位置選択) ボタン
露出補正ボタン (65)
途中巻き戻しボタン (35)
FILM
ON/OFF
A/S
WL
DATE
SEL
P
三脚ねじ穴

ボディ表示部

※この図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

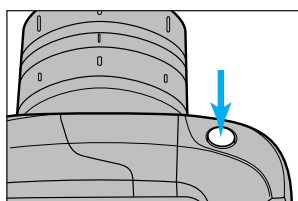
ファインダー表示部

フラッシュ／露出警告表示（オレンジランプ）

点灯	フラッシュの充電が完了しています。
すばやく点滅	フラッシュが充電中です。点灯に変わってから撮影してください。
ゆっくり点滅	手ぶれしやすいので、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

フォーカス表示（緑ランプ）

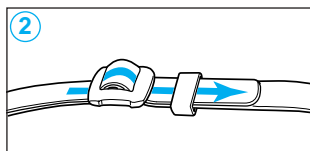
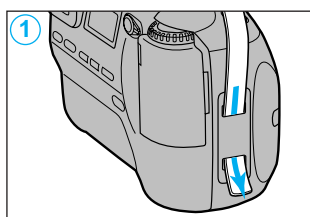
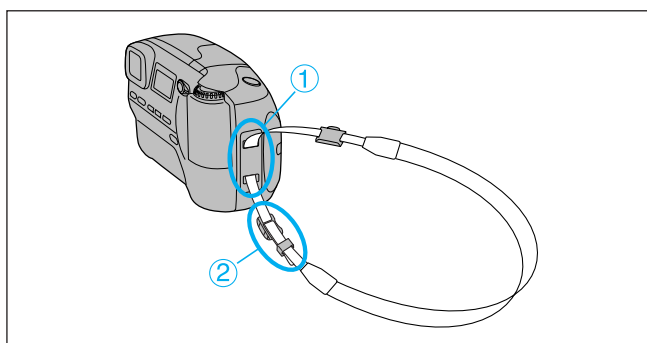
点灯	ピントが合っています。
点滅	ピントが合いません。撮影できません。

撮影早わかり（詳しくは本文をご覧ください。）

1. レンズを取り付けます。
レンズとボディの２つの赤点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

2. フィルムを入れます。
フィルムの使用状態マーク面（○などのある面）を上にして入れます。
○の状態になっているフィルムをお使いください。

3. メインスイッチをＯＮにします。
電源が入ります。

4. おまかせＰボタンを押します。
カメラは全自動の状態になります。

5. プリントタイプを選びます。
C（縦横比2:3）、H（9:16）、P（1:3）の中から選びます。

6. 構図を決めます。
ズームリングを回して希望の大きさを決めます（ズームレンズ使用の場合）。

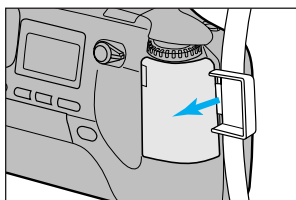
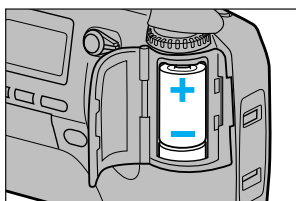
7. ピントを合わせます。
写したいものが［　］に入るようにカメラを構え、シャッターボタンを途中まで軽く押します。フラッシュが必要な場合には、自動的にフラッシュが上がります。

8. 撮影します。
シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

撮影しましょう
［入門編］

この章では、カメラの基本的な操作方法を説明しています。すぐに撮影を始めることができるようになります。

ストラップを取り付けます

付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。

電池を入れます

3Vリチウム電池CR2を２個使用します。お買い上げの際には、電池はすでに入っています。

1. ストラップに付いているアイピースキャップの先を電池室ふたの溝に差し込み、ふたを開けます。

2. 電池室内側の＋／−表示にしたがって電池を入れます。

3. カチッと音がするまでふたを閉めます。

●カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。
●電池室ふたのパッキンやその周辺に水滴や砂などがついているときは、乾いた布でふき取ってください。
●電池の交換後、メインスイッチを入れて数秒後にボディ表示部にDATEと- - - -　- -が点滅したら、日付・時間を設定し直してください（53ページ参照）。

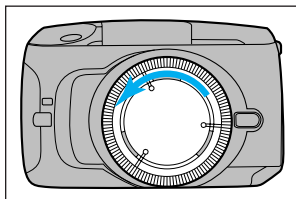
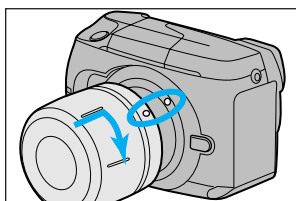
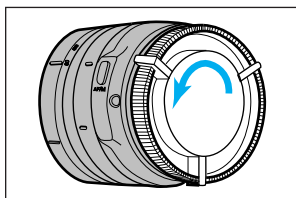
電池容量の確認

メインスイッチを入れるたびに、自動的に電池の容量がチェックされ、ボディ表示部にその結果が表示されます。

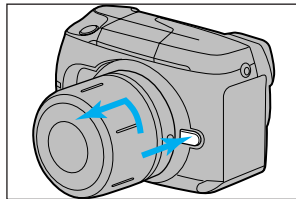
表示	説明
点灯（4秒間）	電池容量は十分です。
点滅	電池を交換することをおすすめします（この状態でも撮影できます）。
のみ点滅（他の表示すべて消灯）	新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

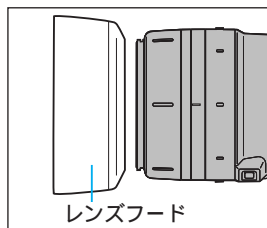
- メインスイッチを入れても何も表示されないときは、まず電池の向きを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。
- お買い上げのときに入っている電池は出荷時に入れたものなので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。
- このカメラでは、メインスイッチを入れてから約30分以上何も操作しないときは、節電のため自動的にメインスイッチが切れます。

レンズの取り付け方・取り外し方

取り付け方

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2. レンズとカメラの２つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します。

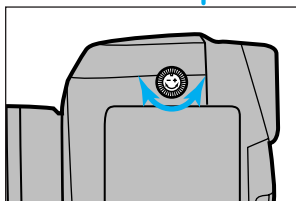
● **レンズを取り付けるときは、レンズ交換ボタンを押さないでください。**
● **レンズを斜めに差し込まないようにしてください。**

取り外し方

レンズ取り外しボタンを押したまま、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

●取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

●フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

●カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。
●マウントの周りのパッキンやレンズの接合面に水滴や砂などが付いているときは、乾いた布でふき取ってから取り付け・取り外しをしてください。
●カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。
●レンズに無理な力を加えないでください。

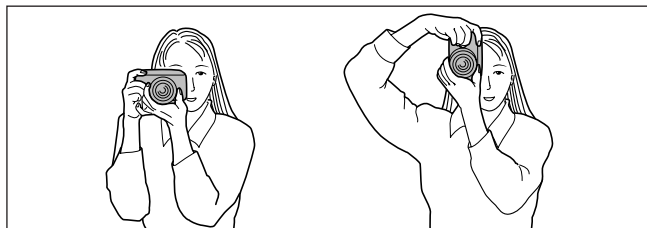
ファインダーが見えにくいときは（視度調整）

眼の調子によりファインダー内の像がはっきりと見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。

1. ファインダーをのぞき、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

2. 被写体がもっともはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを回します。

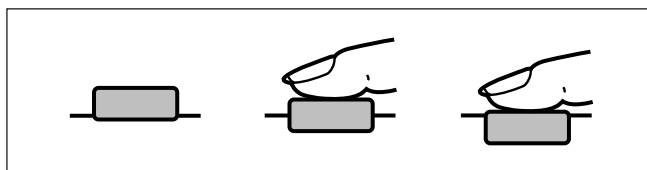
●遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください。

カメラの構え方・シャッターボタンの押し方

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- **右手でカメラのグリップを持ち、脇をしめ、左手でレンズの下側を持って支えます。**
- **片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。**
- **暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚にカメラを固定して撮影してください。**

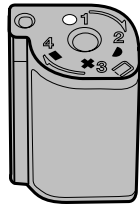
シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは２段階になっています。シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。シャッターボタンを半押しすると、カメラはピントを合わせます。半押しの状態からさらに２段目まで押し込むとシャッターが切れます。

フィルムを入れます

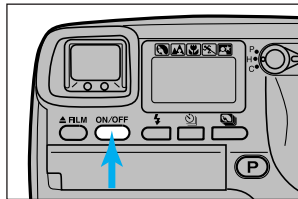
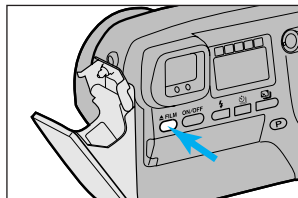
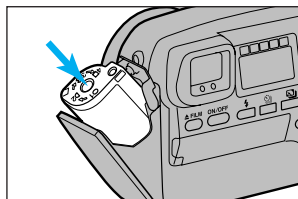
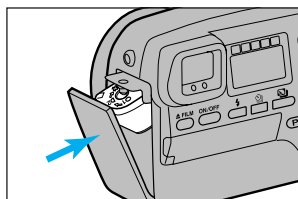
このカメラでは、新システム用のフィルム（IX240カートリッジフィルム）を使用します。

- **カメラの汚れや水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で操作してください。**
- **フィルム室ふたのパッキンやその周辺に水滴や砂などがついているときは、乾いた布でふき取ってください。**

使用状態マークについて

新システムのフィルムは、使用状態を４つのマークでお知らせします。４つのうち白くなっているマークが、そのフィルムの状態を示します。

○　未使用のフィルムです。
D　途中まで撮影済みのフィルムです。
✕　全コマ撮影済みのフィルムです（未現像）。
□　現像済みのフィルムです。

このカメラでは、使用状態マークが○のフィルムをお使いください。
Dのマークは、カートリッジ途中交換機能を備えたカメラで、途中まで撮影したフィルムにのみ現れます。このカメラではDのフィルムは使えません。

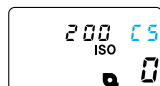
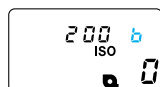
フィルムの入れ方

1. メインスイッチを入れます。

2. フィルム室開放ボタンを押してフィルム室を開けます。

3. 使用状態マーク面を上にして、フィルムを入れます。

4. フィルム室を閉じます。

● **カチッと音がするまできっちりと閉じてください。**

フィルム室を閉じると、ボディ表示部にフィルム感度が表示されます。

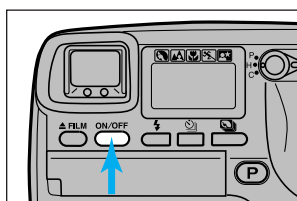
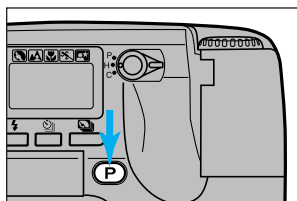
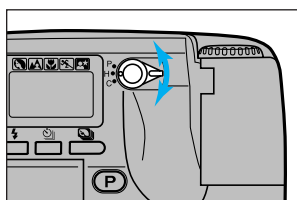
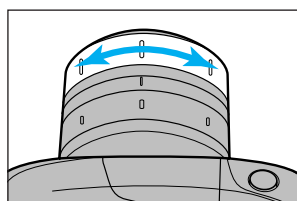
続いてフィルムが１コマ目まで巻き上げられます。

●巻き上げが完了したら、ボディ表示部にフィルムの残り枚数が表示されます（逆算式カウンター）。

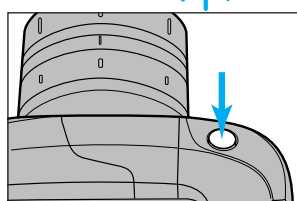
●メインスイッチが入っていなくてもフィルムを入れることができます。
●フィルムを入れた後は、メインスイッチを入れるたびに、ボディ表示部にフィルム感度とフィルムの残り枚数が表示されます。
●フィルムが入っている状態でフィルム室開放ボタンを押しても、フィルム室は開きません（セーフティロック）。このときは、ボディ表示部にフィルム感度等が表示されます。
●○のマークのフィルムを入れて１枚も撮影していないときは、途中巻き戻しボタンで巻き戻しを行った後、フィルム室開放ボタンでフィルムを取り出すことができます。このとき、使用状態マークは変わりません。

リバーサルフィルムを入れた場合は、フィルム感度と同時に「CS」（カラースライド）が表示されます。

白黒フィルムを入れた場合は、フィルム感度と同時に「b」（ブラック／ホワイト）が表示されます。

- 使用状態マークが◗、※、□のフィルムをこのカメラに入れると、ボディ表示部の▣が点滅し、このカメラには使用できないフィルムであることをお知らせします（誤装填防止機能）。フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出してください。
  ※使用状態マークが◗または□のフィルムを、一度このカメラに入れてから取り出すと、マークは※に変わってしまいますので、入れないでください。
- 使用状態マークが○のフィルム（新品のフィルム）でも巻き上げが正しく行われなかったときや、何か異常のあるフィルムを入れたときも、ボディ表示部の▣が点滅します。フィルム室開放ボタンを押してフィルムをいったん取り出し、再度入れ直してください。それでも同じ表示が出る場合は、当社サービスセンターまたはサービスステーションにご連絡ください。

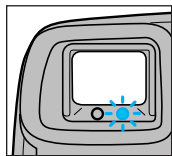
おまかせPモードで撮影しましょう

おまかせＰモードでは、シャッターボタンを押すだけできれいな写真が撮れます。ピント合わせは自動で行われ、フラッシュは必要なときに自動的に発光します。

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. おまかせＰボタンを押します。
   - **カメラは全自動の状態になります。特に設定を変えない限り毎回押す必要はありません。**

3. プリントタイプを選びます。
   - **C（縦横比2:3）、H（9:16）、P（1:3）の中から選びます。**

4. 撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します。

5. ピントを合わせたいものが［　］に入るようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しします。

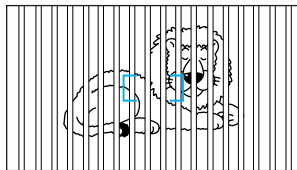
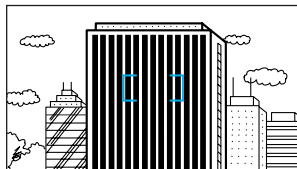
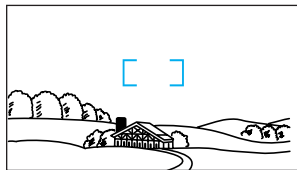
●フラッシュが発光する場合、フラッシュが自動的に上がります。

6. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

●ピントを合わせたいものが［　］に入らないときは、一度ピントを固定して、その後構図を変えます（31ページ参照）。

ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピントが合い、ファインダー下のフォーカス表示（緑ランプ）が点灯します。

●フォーカス表示が点滅した場合は、ピントが合わないので、シャッターが切れません。オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮影しようとしていないか確認してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、以下のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを合わせてから構図を変えてください（次ページ参照）。

●おりの中の動物など、［　］の中に距離の異なるものが混じっているとき

●ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

●青空や壁などコントラスト（明暗差）のないもの、またははっきりしないもの

●太陽のように明るすぎるものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

撮りたいものが画面中央にないときは（フォーカスロック）

ピントを合わせたいものが［　］に入らないときに、そのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが［　］の位置にないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

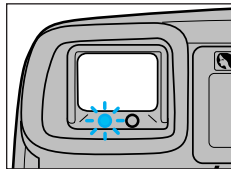
1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

2. 半押ししたまま、撮りたい構図にします。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●被写体が動いているときやスポーツモードにしているときは、ピントを固定することはできません。

フラッシュ撮影

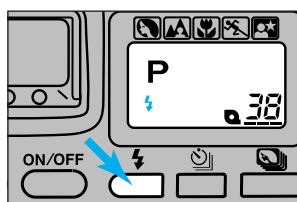
おまかせＰボタンを押すと、フラッシュは自動発光 AUTOとなります。自動発光にしていると、フラッシュが必要な場合は、シャッターボタンを半押しすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、シャッターを切るとフラッシュが発光します。フラッシュが上がった状態では、必要な場合には自動的に発光します。

●フラッシュの充電が完了すると、フラッシュ表示（オレンジランプ）が点灯します。
●フラッシュ表示がすばやく点滅しているときは、フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。
●フラッシュを下げるときは、手で押し下げてください。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲には限界があり、絞り値とフィルムによって異なります。フラッシュ撮影をするときには、以下の範囲内に写したいものを入れて撮影してください。

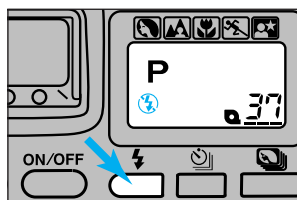
フィルム感度 絞り値	ISO 100	ISO 200	ISO 400
F3.5	0.6 - 3.4 m	0.6 - 4.8 m	0.6 - 6.8 m
F4	0.6 - 3.0 m	0.6 - 4.2 m	0.6 - 6.0 m
F4.5	0.6 - 2.6 m	0.6 - 3.7 m	0.6 - 5.3 m
F5.6	0.6 - 2.1 m	0.6 - 3.0 m	0.6 - 4.3 m

●フラッシュ撮影の場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて写真の下部に影ができることがあります。以下のことに気を付けて撮影してください。
○ 0.6m以上離れて撮影してください。
○ レンズフードは取り外してください。

フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光）

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に ϟ を表示させます。

●シャッターボタンを半押しすると、内蔵フラッシュが上がります。

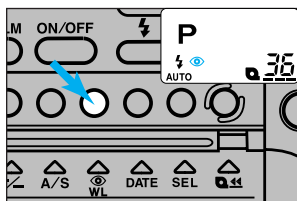
●再度フラッシュモードボタンまたはおまかせＰボタンを押すまで、このモードは変わりません。

フラッシュを発光させたくないとき（発光禁止）

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に ⊘ を表示させます。

●暗いところで発光禁止 ⊘ を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります（オレンジ色のフラッシュ表示が点滅してお知らせします）。三脚を使って撮影してください。

●フラッシュが上がった状態でも発光しません。
●再度フラッシュモードボタンまたはおまかせＰボタンを押すまで、このモードは変わりません。

目が赤く写るのを軽減します（赤目軽減）

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュ光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象を和らげることができます。

カメラ背面のカバーを開け、赤目軽減ボタンを押して👁を選びます。

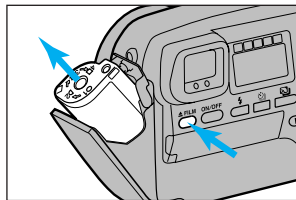
- **シャッターが切れる直前に数回フラッシュが発光します。**
- **シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間、カメラを動かしたり、写される人物が動いたりしないように注意してください。**
- **元に戻すときは、赤目軽減ボタンを押して、👁やWLが表示されない状態にしてください。（WLとは、ワイヤレスフラッシュ撮影のことです。66ページ参照）**

フィルムを取り出します

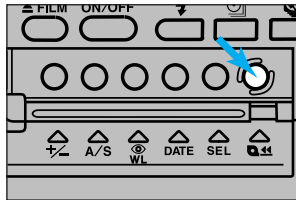
フィルムカウンターが0になると、自動的に巻き戻しが始まります。

1. 巻き戻しが終了するまで待ちます。

●巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が順に減っていきます。

●フィルムカウンターが0になり、◘が点滅したら、巻き戻しは終了です。

2. フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出します。

●取り出したフィルムのマークは、※（撮影済、未現像）になっています。

フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき

1. カメラ背面のカバーを開け、途中巻き戻しボタンを押します。

●巻き戻しが始まります。

2. フィルムカウンターが0になり、◘が点滅したら、フィルム室開放ボタンを押してフィルムを取り出します。

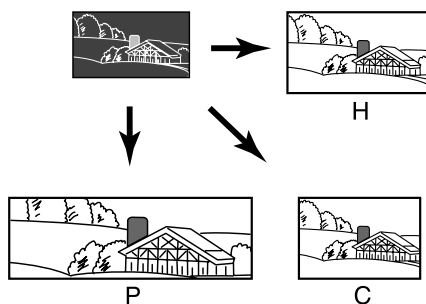
●取り出したフィルムのマークは、※（撮影済、未現像）になっています。

現像・プリントに出すときは

このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示しているお店にお出しください。認定店でのサービスについては、72ページをご覧ください。

- **各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプ89x127mm、Hタイプ89x158mm、Pタイプ89x254mmです。**

焼き増しを頼むときは

焼き増しを頼むときに、撮影時の設定と違うプリントタイプで焼き増しすることもできます。どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで露光されているためです。

撮影シーンに合わせて撮ってみましょう［初級編］

撮影シーンセレクターを使うと、撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

ポートレート
人物が美しく浮き立つように、背景がぼけて写ります。

記念撮影・風景
どこで撮影したかすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

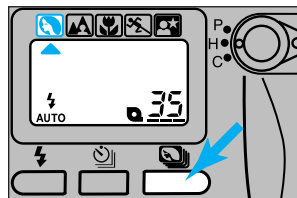
クローズアップ
小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

スポーツ
速く動いているものでもぶれないように写ります。

夜景ポートレート・夜景
夜景がつぶれることなくきれいに写ります。

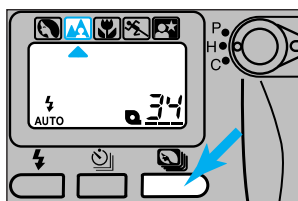
● おまかせＰボタンを押すとカメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にＰが表示されます。

ポートレート

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

撮影シーン選択ボタンを押して、
を選びます。

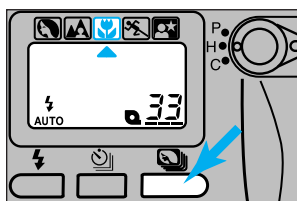
- **逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。**
- **背景をぼかすには、レンズの望遠側のほうが効果があります。**

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

撮影シーン選択ボタンを押して、🏔を選びます。

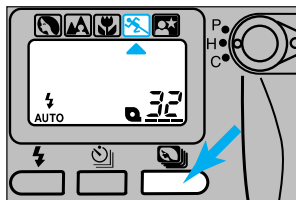
- **記念撮影で逆光の時は、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影する場合は、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンで発光禁止⚡を選んでください）。フラッシュ光の届く範囲については32ページを参照してください。**
- **曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。（手ぶれしやすいときは、ファインダー下のオレンジランプが点滅します。）**
- **夜景をバックに記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。**
- **画面全体にピントを合わせるには、レンズの広角側のほうが効果があります。**

クローズアップ

小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

撮影シーン選択ボタンを押して、を選びます。

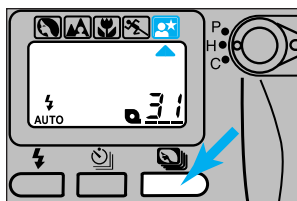
- **0.6m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、フラッシュは使わないでください。**
- **クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。**
- **レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。**
- **より大きく撮影するには、Vマクロ50mm F3.5をおすすめします。**

スポーツ

速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

撮影シーン選択ボタンを押して、[スポーツマーク]を選びます。

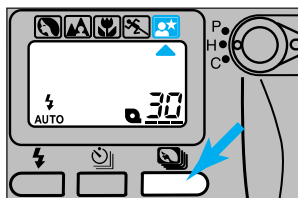
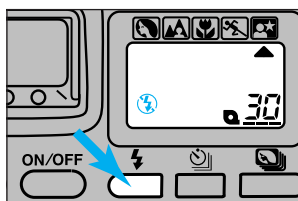
- **高感度フィルム(ISO 400等)の使用をおすすめします。**
- **フラッシュ光が届かない場合(フラッシュ光の届く範囲については32ページ参照)は、フラッシュは使用しないでください。**
- **望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。**
- **このモードでは、ピント位置が固定せず、常に動き続けます。**

夜景ポートレート（人物＋夜景の場合）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、を選びます。

- **手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。**
- **高感度フィルム（ISO 400等）の使用をおすすめします。**
- **フラッシュは自動発光 AUTO または強制発光 にしてください。**

夜景（夜景のみの場合）

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. 撮影シーン選択ボタンを押して、を選びます。

2. フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュ発光禁止を選びます。

- **手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。（ファインダー下のオレンジランプが点滅します。）**
- **高感度フィルム（ISO 400等）の使用をおすすめします。**
- **明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。**
- **ピントが合いにくいときは、明るい部分にピントを合わせてから撮影してください（31ページ参照）。**

写真の描写を変えてみましょう［中級編］

絞り値やシャッター速度などの設定を直接コントロールして、背景の描写や動いているものの描写などを撮影者の思い通りに設定することができます。

ある一つの場面がどのように写真上で再現されるかは、おもにカメラの絞り値とシャッター速度によって決まります。Ｐモードおよび撮影シーンセレクターでは、カメラが自動的にこれらの設定をします。ところが、露出モードを変えると、これらの絞り値やシャッター速度を撮影者が自由に選ぶことができるようになり、より思い通りの写真が撮れるようになります。

Ｐモード・撮影シーンセレクター
絞り値・シャッター速度とも、カメラが自動的に設定します。

Ａモード
絞り値を変えることによって、背景描写のコントロールができます。シャッター速度は自動的に決まります。

Ｓモード
シャッター速度を変えることにより、動いているものの表現方法を変えることができます。絞り値は自動的に決まります。

●おまかせＰボタンを押すとカメラは全自動の状態になり、ボディ表示部にＰが表示されます。

背景の描写を変えてみましょう（Aモード撮影）

絞り値とは

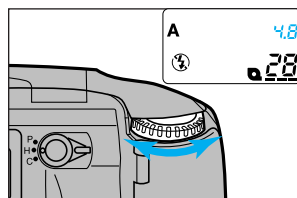
絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

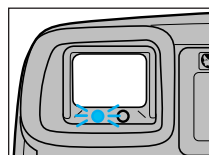
左の写真は、絞り値が小さい状態で撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートとしてふさわしい写真になっています。
右の写真は、絞り値が大きい状態で撮影しています。被写体のみでなくその前後の広い範囲にピントが合って見え、記念撮影等に適した写真になっています。
このような背景の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、左のように絞り値が小さい（F3.5、4など）ほど背景がぼけ（ピントの合う範囲が狭くなり）、右のように大きい（F16、22など）ほど背景までピントが合い（ピントの合う範囲が広くなり）ます。

- **広角レンズほど背景までピントが合い、望遠レンズほど背景がぼけやすくなります。**
- **カメラから被写体までの距離が短いほど、背景がぼけやすくなります。**
- **このカメラでは、ミノルタαシリーズの絞り値と数値が若干異なることがあります。**

Aモード撮影方法

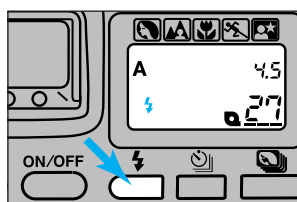
1. カメラ背面のカバーを開け、露出モード選択ボタンを押して、ボディ表示部にAを表示させます。

2. ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

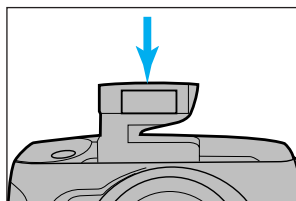
●設定できる絞り値の範囲は、使用レンズによって決まります。

●Aモード撮影を終えたいときは、おまかせPボタンでPモードにしてください。

●ファインダー下のフラッシュ表示（オレンジランプ）が点滅した場合は、シャッター速度が遅くなり、手ぶれしやすくなります。三脚を使用するか、フラッシュを使って撮影してください。

●フラッシュ表示（オレンジランプ）とシャッター速度（1000または30"）が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

●絞り値を変えてもファインダーでの見え方は変わりませんが、フィルム上およびプリントでは絞り値を変えた効果が現れます。

Aモードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュを上げて撮影してください。

- **ボディ表示部には ϟ が表示されます。**
- **シャッター速度は自動的に1/90秒になります。**
- **絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。できるだけ絞り値を小さくして（開放側で）撮影してください。**

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

- **ボディ表示部には ⊘ が表示されます。**

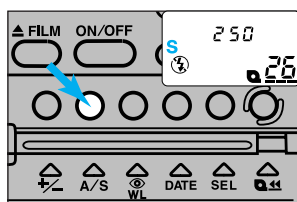
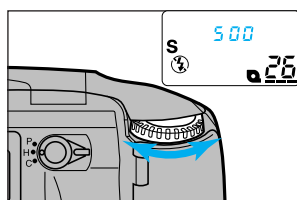
動いているものの描写を変えてみましょう（Sモード撮影）

シャッター速度とは

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

左の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。水しぶきが止まって見え、その様子がよくわかります。
右の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。水の流れがよく表現されています。
このような動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは、光がフィルムに当たっている時間のことで、左のようにシャッター速度が速い（1/500、1/1000秒など）ほど動くものは止まって写り、右のように遅い（1/15、1/30秒など）ほど流れるように写ります。

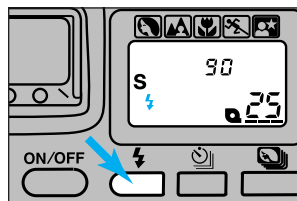
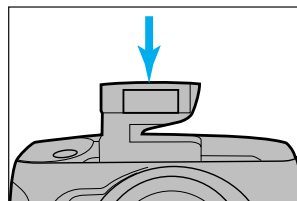
Sモード撮影方法

1. カメラ背面のカバーを開け、露出モード選択ボタンを押して、ボディ表示部にSを表示させます。

2. ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。
   ●設定できるシャッター速度の範囲は、30秒〜1/1000秒です。

●表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表します。2"、4"など「"」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表します。

●Sモード撮影を終えたいときは、おまかせPボタンでPモードにしてください。

●フラッシュ表示(オレンジランプ)と絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください。

Ｓモードフラッシュ撮影

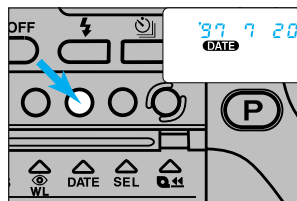
Ｓモードでフラッシュを上げているときはＰモードと同じで、シャッター速度、絞り値とも自動的に決まります。撮影者が自分でシャッター速度を選ぶことはできません。

フラッシュは自動発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュを上げて撮影してください。

●**ボディ表示部には ϟ が表示されます。**

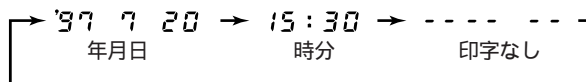
フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

●**ボディ表示部には ⓧ が表示されます。**

こんなことも
できます

日付・時間を写し込むには

このカメラでは、撮影時の日付や時間をプリントの表裏両側に印字することができます。

撮影の前に、カメラ背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して希望の表示を選びます。

●日付／時間印字ボタンを押すごとに、表示が図のように切り替わります。

●選んだ後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。「年月日」または「時分」を選んだ場合は、ボディ表示部にDATEと表示され、プリントの表側に日付または時間が印字されることをお知らせします。

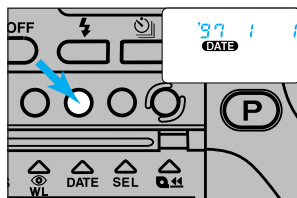
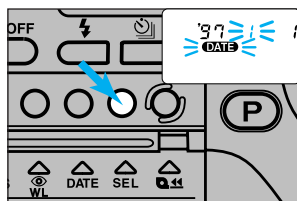
●「年月日」または「時分」を選んだ場合は、プリントの表裏両面に「年月日」または「時分」が印字されます。

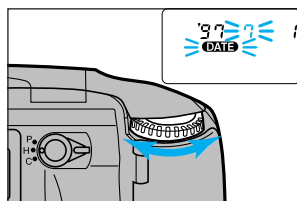
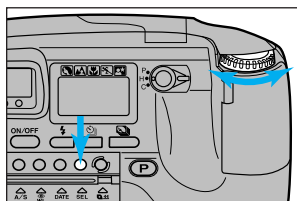
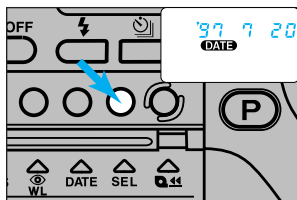
●印字なしを選んだ場合は、プリント表面には印字されず、裏面に「年月日時分」が印字されます。

●お店によっては、表面の印字に対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお尋ねください。

日付と時間の修正

2029年までの日付が記憶されています。カメラ本体の電池を外すと日付が消去されることがありますので、電池を交換後、メインスイッチを入れて数秒後にDATEと---- --が点滅していたら、日付と時間を設定し直してください。

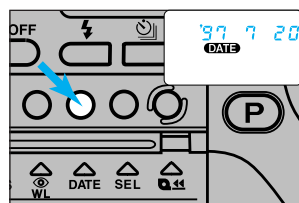
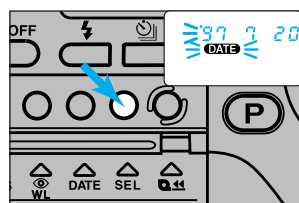
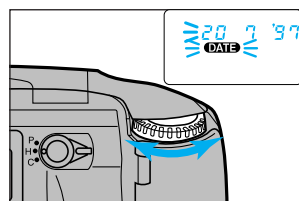
●点滅していた場合は、設定し直さなければ日付は印字されません。

1. カメラ背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して、「年月日」「時分」または---- --を表示させます。

2. セレクト（修正位置選択）ボタンを押して、変更したい数字を点滅させます。

●セレクトボタンを押すたびに、年→月→日→時→分の順に数字が点滅します。

3. ダイヤルを回して、数字を変更します。

4. 他にも修正個所があるときは、セレクトボタンとダイヤルで2と3の操作を繰り返します。

5. 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクト（修正位置選択）ボタンを押すか、日付／時間印字ボタンを押します。

●設定後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。

●数値が点滅している状態で他のボタンを押した場合は、変更した数値は無効になります。

「年月日」の並び変え

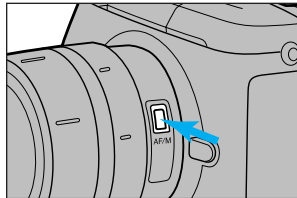
「年月日」の順序を変えることができます。表示部の順序を変えると、プリントに印字される順序も同じように変わります。

1. 背面のカバーを開け、日付／時間印字ボタンを押して、「年月日」「時分」または---- --を表示させます。

2. 「年月日」全部が点滅するまで、セレクト（修正位置選択）ボタンを数秒間押し続けます。

3. ダイヤルを回して、「月日年」または「日月年」を選びます。

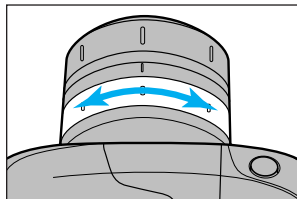
4. セレクトボタンまたは日付／時間印字ボタンを押して、日付の点滅を終了させます。

- **設定後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。**
- **数値が点滅している状態で他のボタンを押した場合は、変更した数値は無効になります。**

手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスを使わずに手動でピントを合わせることもできます。

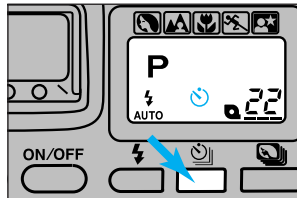
●フォーカスリングのないレンズでは、この機能は使えません。

1. レンズ上のフォーカスモードボタンを押します。

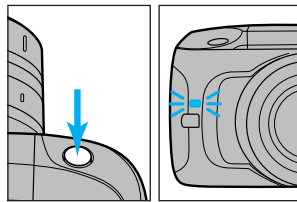
●ボディ表示部にM.FOCUSが表示されます。

2. フォーカスリングを回して、被写体がもっともはっきり見えるようにします。

●[　]内のものにピントが合うと、ファインダー下のフォーカス表示(緑ランプ)が点灯します。

●もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。

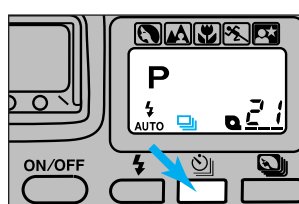
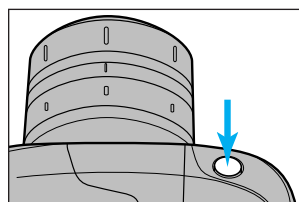
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も写真にはいることができますので、全員での記念写真などに便利です。

1. カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に⏲を表示させます。

2. 撮りたいものにファインダー内の［　］を重ねます。

3. シャッターボタンを押します。
   - **カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプとボディ表示部の⏲が点滅を始めます。撮影直前にはランプは点灯に変わります。**
   - **撮影後、セルフタイマーは解除されます。**

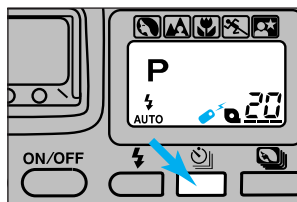
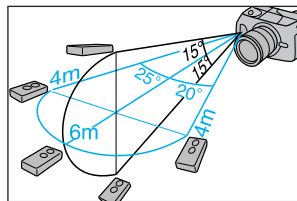
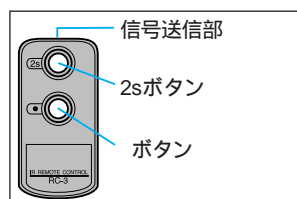
- **カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。レンズがさえぎられてピント合わせができなくなります。**
- **作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチを切るか、もう一度セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押してください。**
- **カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください（60ページ参照）。**

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

1. セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に□を表示させます。

2. シャッターボタンを押し続けます。
●押し続けている間、連続して撮影されます。

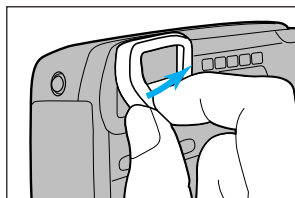
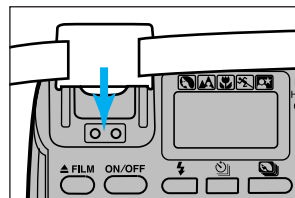
●連続撮影の速度は、１コマ約１秒です。撮影中に被写体までの距離が変わったときは、そのたびにピントを合わせ直しますので、もう少し時間がかかります。フラッシュ撮影時は、フラッシュの充電が完了してから撮影します。

リモコン撮影

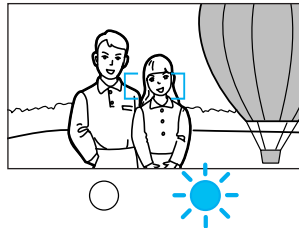
付属のリモコンを使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。

1. セルフタイマー／連続撮影／リモコン選択ボタンを押して、ボディ表示部に を表示させます。

2. カメラを三脚などに固定して、カメラと被写体の位置を決めます。
   - **図の範囲内でリモコンを操作してください。**

3. リモコンの信号送信部をカメラに向けて、2sボタンか●ボタンを押します。

- **2sボタンを押すと、カメラ前面のリモコン作動表示ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。●ボタンを押した場合は、ランプが１回点滅して、すぐにシャッターが切れます。**

●フラッシュが発光するときは、最初にリモコンのボタンを押したときにフラッシュが上がり、充電が始まります。数秒待ってからもう一度押すと撮影されます。最初からフラッシュが上がっているときは、フラッシュが充電していれば最初に押したときにすぐ撮影されます。
●撮影後も、リモコンは解除されません。そのまま続けて撮影できます。
●8分以上カメラやリモコンを操作しないと、リモコン撮影は解除されます。
●逆光時や蛍光灯の近くでは、リモコン撮影できないことがあります。
●リモコンは防滴ではありません。
●リモコンのボタンを押したときにリモコン作動表示ランプが点滅しない場合は、撮影ができていません。次ページの要領でピント位置を固定し、距離・方向などを確認の上、再度撮影してください。

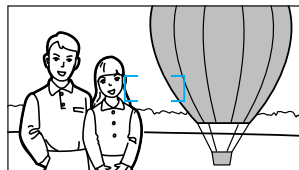
●カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください。取り付け方は、

1. ファインダーに付いているゴム部分(アイピースカップ)を外します。

2. ストラップに付いているアイピースキャップを、上からスライドしてはめ込みます。

被写体が画面中央にないときや、ピントを確認したいときは

撮りたいものが[　]に重ならないときやオートフォーカスでピントが合いにくいとき、また撮影前にピント位置を確認したいときは、以下の手順で撮影してください。

1. カメラを三脚などに固定して、リモコン撮影にします。

2. 撮りたいもの（またはピントを合わせたいものと同じ距離にあるもの）に[　]を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

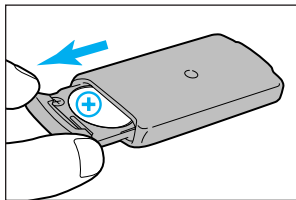
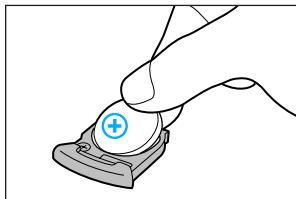
3. ファインダー下のフォーカス表示（緑ランプ）が点灯したら（＝ピント位置が固定したら）、シャッターボタンから指を離します。

●**指を離してもフォーカス表示はそのまま残っていて、ピント位置が固定していることを表します。**

4. 撮りたい構図に変え、リモコンで撮影します。

●**撮影後も、ピント位置はそのまま固定されています。カメラ本体を操作（何かのボタンを押すなど）すると解除されます。**

●**マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）で撮影することもできます。**

リモコン用電池の交換

リモコン用の電池には、リチウム電池（CR2032）１個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。

1. リモコンを裏向けて、電池室を引き出します。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池を＋側を上にして入れます。

3. 電池室を元通り確実にはめ込みます。

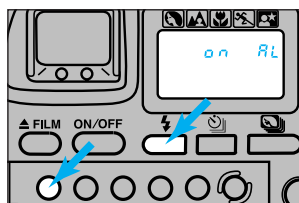
● **コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。**

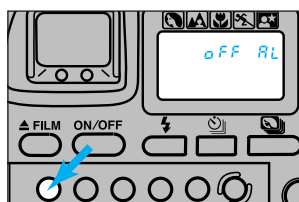
ピント合わせのためにフラッシュが光ります（ＡＦ補助光）

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするために発光するＡＦ補助光です。

●この補助光によってピントが合う範囲は0.6〜5mです（当社試験条件）。

●スポーツモードでは補助光は発光しません。

内蔵フラッシュによるＡＦ補助光を禁止したいときは

1. フラッシュモード選択ボタンと露出補正ボタンを同時に押します。

●ボディ表示部に「on AL」と表示されます。

2. 露出補正ボタンを押して、「oFF AL」と表示させます。

●シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影表示に戻ります。

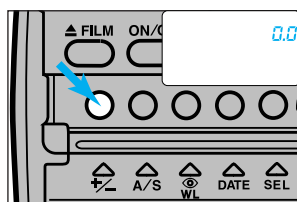
●上記の操作を繰り返してもう一度「on AL」と表示させると元に戻ります。

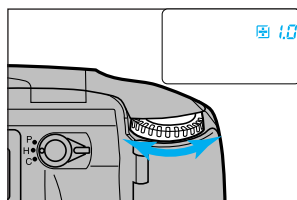
写真全体を明るくする・暗くする（露出補正）

適正露出

露出オーバー

露出アンダー

フィルムに当たる光の量を調節して、プリントされる写真全体を明るめにしたり暗めにしたりすることができます。
フィルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。このカメラでは、意図的に露出オーバー、アンダーにする（露出補正をする）ことができます。

1. カメラ背面のカバーを開け、露出補正ボタンを押します。

●ボディ表示部に0.0が表示されます。

2. ダイヤルを回して希望の数値を表示させます。

●⊞は露出オーバー、⊟は露出アンダーを表します。数値が大きいほど露出補正量は多くなります。

●±３段まで設定できます。

●設定後、シャッターボタンを半押しすると通常の撮影表示に戻ります。露出補正値は表示されませんが、ボディ表示部に⊞または⊟の表示が残り、露出補正されていることを表します。

●露出補正を解除するには、上記の方法で0.0を選ぶか、おまかせＰボタンを押します。

●露出オーバー、アンダーは、ネガフィルムよりもリバーサルフィルムの方がはっきりした効果が出ます。

●撮ろうとしている場面が白っぽいときはややオーバー側にすると白さが再現されやすく、黒っぽいときはややアンダー側にすると黒さが再現されやすくなります。

ワイヤレスフラッシュ撮影

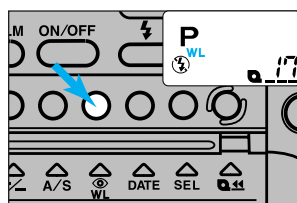
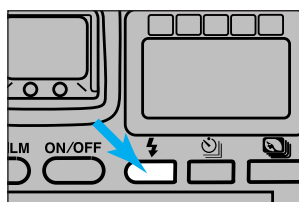
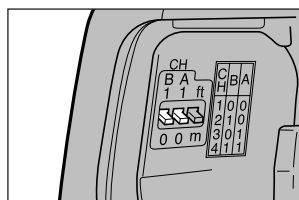
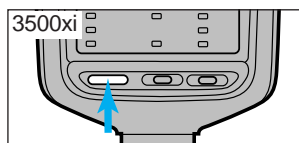
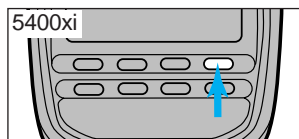
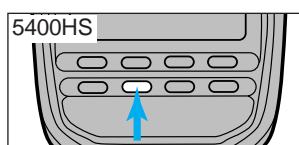
内蔵フラッシュでの撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影

カメラの内蔵フラッシュで撮影すると、上の写真のように平面的な写真になったり、時には光量が足りずに粗い写真に仕上がることがあります。このようなとき、別売のプログラムフラッシュを使うと、光がより遠くに届き、かつフラッシュの位置を工夫することで、中央の写真のように陰影をつけて立体感を出すこともできます。
このカメラでは、カメラ・フラッシュ間の信号の伝達をフラッシュの光を利用して行うことができます。この撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影といいます。

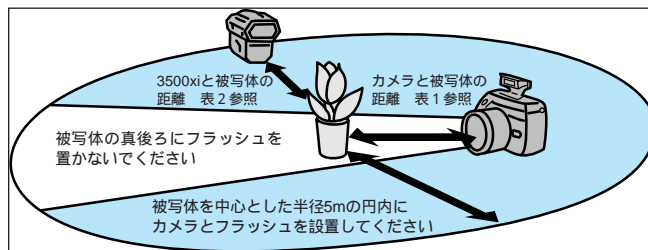
ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

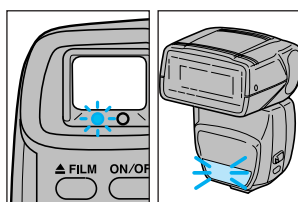
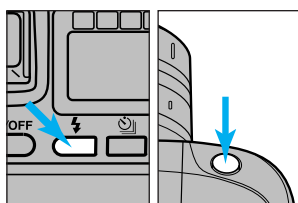
●これらのプログラムフラッシュは防滴ではありません。

ワイヤレスフラッシュ撮影方法

1. カメラ背面のカバーを開け、赤目軽減／ワイヤレスフラッシュボタンを押して、ボディ表示部にWLを表示させます。

2. カメラのフラッシュモード選択ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げます。

3. プログラムフラッシュの電池室内のチャンネルをＣＨ１に設定します。
（左のイラストは5400HS/5400xiのものです。）

4. 別売のプログラムフラッシュをワイヤレスフラッシュに設定します。
- **5400HSは発光モード切り替えボタン（MODE）で、5400xiは通常メニューでWIRELESSボタンで、ワイヤレスフラッシュになります。3500xiは、いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続けてください。**

5. カメラとプログラムフラッシュの位置を決めます。

このカメラは、内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。

- **室内など、暗いところで撮影してください。**
- **以下の図表は、3500xiを使用するときのものです。その他のフラッシュを使われるときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。**

絞り値	カメラと被写体の距離(表１)	3500xiと被写体の距離(表２)
F4	1.4 - 5.0 m	1.0 - 5.0 m
F4.8	1.2 - 5.0 m	0.85 - 5.0 m
F5.6	1.0 - 5.0 m	0.7 - 4.5 m

（ISO 200のフィルム使用時）

6. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。
   - **内蔵フラッシュは、ファインダー下のオレンジ色のフラッシュ表示が点灯すると充電完了です。**
   - **フラッシュは、背面の ϟ マークが点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。**

7. カメラのフラッシュモード選択ボタンを押して、プログラムフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。
8. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

ワイヤレスフラッシュ撮影をリモコンで行う場合

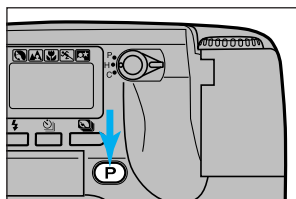
リモコンでワイヤレスフラッシュ撮影をする場合は、以下の点に気を付けてください。フラッシュが誤発光することがあります。
- **リモコンとプログラムフラッシュの距離は1m以上離してください。**
- **プログラムフラッシュに向けてリモコンを送信しないでください。**

ワイヤレスフラッシュの解除

カメラとフラッシュを別々に解除します。

カメラの解除	**赤目軽減／ワイヤレスフラッシュボタンを押して、ボディ表示部のWLを消します。**
フラッシュの解除	**設定したときと同様の方法で、ワイヤレスフラッシュを解除します。**

知っておくと
便利です

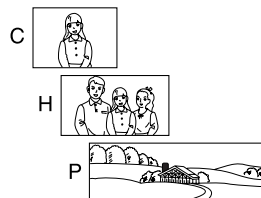
おまかせＰボタン

おまかせＰボタンを押すと、カメラの各機能は次の状態になります。

機能	おまかせＰモードの設定
撮影モード	Ｐモード
ピント合わせ	オートフォーカス
フラッシュモード	自動発光
巻き上げモード	１コマ撮影
露出補正	±０
ワイヤレスフラッシュ	解除

●日付／時間、赤目軽減機能、AF補助光の有無は変わりません。

プリント時のサービスについて

このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示しているお店にお出しください。認定店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

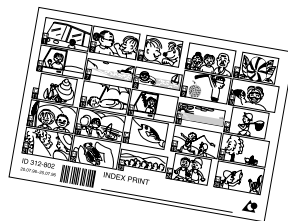
1.プリントタイプ切り替え(C/H/P)に対応します。
撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

2.日付やタイトルを裏面に印字します。
日付や時間をプリントの裏面に印字してお返しします。

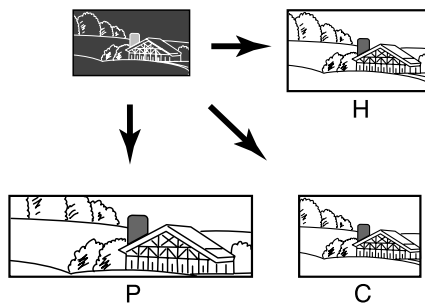
3.高品質なプリント画像が得られます。
フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして現像・プリントされますので、最適な画像が得られます。

4.フィルムをカートリッジに入れてお返しします。
現像済のフィルムは、カートリッジに入った状態でお客様にお返しします。現像済みのフィルムの使用状態マークは▢になります。

5.インデックスプリントをお渡しします。

１本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて１枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

これらのサービスの詳細については、お店の方にお問い合わせください。

焼き増しを頼むときは

焼き増しを頼むときに、撮影時の設定と違うプリントタイプで焼き増しすることもできます。どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで露光されているためです。

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズ および 付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

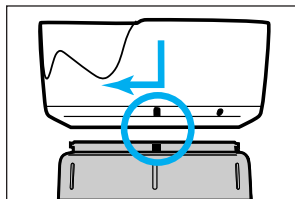
レンズ

ベクティス用に開発されたミノルタＶレンズをお使いください。それ以外のレンズ（αレンズ、MDレンズ等）はご使用になれません。

レンズフード

画面外の光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

- **内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光が遮られることがありますので、レンズフードを外してください。**

<取り付け方>

レンズフードの赤線をレンズの赤線に合わせ、そのままレンズフードの赤点とレンズの赤線が合うまで時計方向に回します。

赤線のないレンズフードとレンズの場合は、レンズフードとレンズの先端を合わせ、時計方向に止まるまで回せば固定されます。

<取り外し方>

レンズフードを反時計方向に止まるまで回して、外します。

- **レンズを収納するときは、レンズフードを逆向きに取り付け、前後のキャップをつけてください。**

ミノルタVズーム28-56mm F4-5.6　主な性能

（キットでご購入された方へ）

項目	性能
レンズ　群 - 枚	7 - 7
画角	34°10' - 63°20'
最近接撮影距離	0.35 m
最大撮影倍率	0.18X
最小絞り	F32
フィルター系	40.5 mm
補修用性能部品保有年限（生産終了後）	5 年
大きさ（最大径 x 長さ）	Ø59 x 52 mm
重量	115 g

ここに記載の性能は、当社試験条件によります。
ここに記載の性能及び製品の外観は、都合により予告なく変更することがあります。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような撮影距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

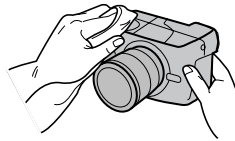
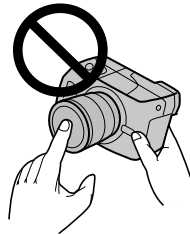
このカメラには、別売のフラッシュを取り付けるためのアクセサリーシューがありません。別売のフラッシュを使われるときは、カメラとフラッシュを離した状態で撮影（ワイヤレスフラッシュ撮影、66ページ参照）してください。
使用できるフラッシュは以下の通りです。
プログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xi

- **ベクティスフラッシュSF-1はこのカメラではご使用になれません。**

この使用説明書は1997年5月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏面に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

取り扱い上の注意

手入れのしかた

- カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ上にかけることはお避けください。
- ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。故障の原因になります。カメラ内部のミラーは、多少ホコリがついていても露出等には影響しません。
- カメラ内部をボンベブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは使わないでください。
- レンズ面には直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
- 保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤といっしょに入れるとより安全です。
- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々シャッターを切るようにして、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後７年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

万一、不具合が生じたときは

- お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝えください。
- 修理を依頼される場合は、不具合が生じたときのフィルムも一緒にお持ちください。

	ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

主な性能

カメラタイプ：	IX240レンズ交換式カメラ
使用レンズ：	ミノルタＶレンズ
オートフォーカス：	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー 検出範囲：EV1〜19 (ISO 200) AF補助光：内蔵フラッシュによる補助光 作動距離範囲：約0.6〜5m
測光方式：	フラッシュ非発光時：TTL開放測光（２分割） フラッシュ発光時：TTLダイレクト調光 測光素子：２分割SPC（シリコンフォトセル） 測光範囲：EV4〜20（ISO 200、F3.5レンズ）
シャッター：	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター シャッター速度：1/1000〜30秒 フラッシュ同調速度：1/90秒 （ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/45秒）
内蔵フラッシュ：	ガイドナンバー：17（ISO 200） 照射角：焦点距離22mmをカバー 充電時間：約3.5秒 P／ポートレート／記念撮影／夜景ポートレート：自動発光（逆光・低輝度）／強制発光／発光禁止 クローズアップ／スポーツ：自動発光（低輝度）／強制発光／発光禁止 A／S：強制発光／発光禁止
ファインダー：	一眼レフレックス方式 TTLリレー光学系ファインダー 視野率：90% x 90% 倍率：0.7倍 視度：-3〜+1ディオプトリー アイポイント：接眼レンズ後面より29mm
フィルム給送：	ワンタッチローディング 1コマ撮影／連続撮影（約1コマ／秒） カウンター：逆算カウンター

フィルム感度：　自動設定：ISO 25〜6400
フラッシュ撮影時は ISO 25〜1000

使用電池：　3Vリチウム電池（CR2）２本

撮影可能本数：　試験条件：
25枚撮りフィルム、新品電池使用
使用レンズ：Vズーム28-56mm F4-5.6
レンズを１コマ毎に無限遠から2mまで2回往復させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後レリーズ
これを2本／月の割合で撮影する

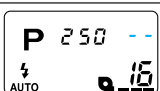
温度	20℃
フラッシュ使用しない	約30本
フラッシュ50%使用	約13本
フラッシュ100%使用	約9本

●電池は、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで消耗します。電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチを切ってください。

大きさ：　124.5 x 78.5 x 55.5mm

重さ：　315g（電池別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能及び外観は都合により予告なく変更することがあります。

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったとき、あるいは思うような写真が撮れないときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いとき

症状	点検項目
ピントが合わない。	コントラストのないものや、オートフォーカスの苦手なものを撮影していませんか。
	被写体に近づきすぎていませんか。
	M.FOCUS が表示されていませんか。
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。
シャッターボタンを半押しするとフラッシュが発光する。	
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。
フラッシュ撮影でプリントしたものが暗い。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。
フラッシュ撮影でプリントしたものが部分的に暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。
ボディ表示部に何も表示されない。	電池が消耗していませんか。

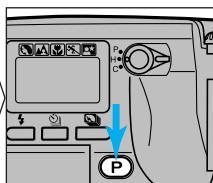
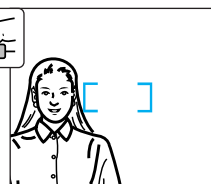
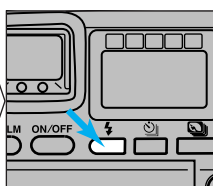
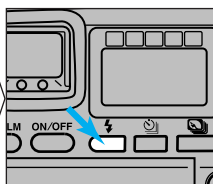
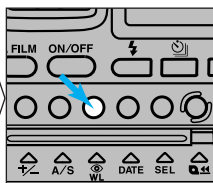
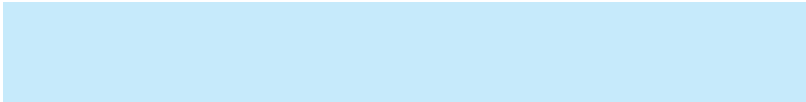
やわからないときは、お近くの弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

処置	ページ
フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行ってください。	31, 56
レンズの最近接撮影距離に注意して撮影してください。 （最近接撮影距離については、レンズの使用説明書参照）	
フォーカスモードボタンを押してオートフォーカスにしてください。	56
ピントが合わないとシャッターが切れません。フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行ってください。	31, 56
ピント合わせのためのフラッシュ（AF補助光）です。	63
フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。 ※ 高感度フィルムを使うと、手ぶれが少なくなります。また、望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると手ぶれしやすくなります。	33
フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	32
カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	74
新しい電池を入れても作動しないときは、電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返す場合は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。	18

警告表示一覧表

モード	表示部	原因
	DATE と- - - -　- -が点滅	電池交換のため、日付の情報が失われました。
	Err が点灯	カメラに異常が発生しています。
	- - が点灯	レンズがきっちりと取り付けられていません。
A	1000または30"が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を超えています。
S	最大または最小絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値の範囲を超えています。

処置	ページ
日付と時間を再設定してください。	53, 54
メインスイッチをいったん切って入れ直すか、電池を一度取り出して入れ直してください。それでも直らない場合はお近くのミノルタサービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。	18
レンズをきっちりと取り付けてください。また、天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。お近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。	20
シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。	46, 47
絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。	49, 50

○○○したいときは…

おまかせ
Pモードに
したい
P
AUTO
[　]以外に
ピントを
合わせたい
フラッシュを
必ず
発光させたい
フラッシュを
発光させずに
撮りたい
目が赤く
写るのを
軽減したい
FILM
ON/OFF
A/S
WL
DATE
SEL

撮影シーン
セレクターで
撮りたい
ポートレート
記念撮影・風景
クローズアップ
スポーツ
夜景ポートレート・夜景
夜景をバック
に
ポートレート
を
撮りたい
夜景のみを
撮りたい
日付・時間を
印字したい
'97 7 20
DATE
P
DATE
AUTO
FILM
ON/OFF
A/S
WL
SEL
フィルムを
途中で
巻き戻したい

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　　03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　　03-3356-6303

受付時間　　10：00～18：00（土・日・祝日定休）

9223-2102-71　P-A112